



「平野神社」

いつまでも安心して住み続けられる地域を

- ・2018年 年頭のごあいさつ 大田直史 2
- ・ストリートビュー調査始まる 中林浩 4
- ・南丹市美山町における
空き家活用事例見てある記 大塚佳治 6
- ・木津川市政10年を経て、
市民による市政検証 霜田勤 8
- ・私の本棚 馬場こうへい 10
- ・カメラ探訪(50・最終回) 新田能富子 11
- ・事務局通信 12



(社)京都自治体問題研究所

TEL: 075-241-0781

FAX: 075-708-7042

Email: kyoto@kyoto-jichiken.jp

HP: <http://www.kyoto-jichiken.jp/>

発行人 大田直史

(「住民と自治」1月号付録)

2018年 年頭のごあいさつ

大田直史(龍谷大学教授・京都自治体問題研究所理事長)

新年おめでとうございます。2018年年頭にあたってごあいさつ申し上げます。

2017年、日本の政治は激動の年でした。安倍内閣は、2015年の安保関連法の強行可決に続いて、共謀罪法を強行採決、可決しました。同法は明らかに罪刑法定主義に反し、再び立憲主義無視で批判をあびました。この問題に続いて、森友学園に対する国有財産の売却価格に関して特例的な値引をめぐる安倍首相および安倍夫人の関与の疑惑、ならびに国家戦略特区による加計学園の獣医学部新設問題でも、特区認定の過程で安倍首相の意向が影響したという疑惑は、それを裏付ける文科省の文書の存在を認める前川前文部事務次官の証言によって事実であることが明らかにされました。両疑惑は安倍首相の行ってきた公権力行使・政治が、自らと自らに親密な関係にある人々の私的利益実現のために行われてきたことを白日の下に明らかにしました。

政権による政治の私物化に対する国民的な批判の高まりは、7月の都議選において、自民党が議席を6割減の23議席（改選前57議席）という結果に現れました。この頃、内閣の不支持率が支持率を大きく上回る状況が生まれており、安倍首相とその政権の終焉が間近かと思われる状況にまで追い込んだかに思われました（2017年7月－8月の内閣〈不支持率：支持率〉

は、NHK世論調査で〈48－43%：35－39%〉、TV朝日調査で〈54.5－47.2%：29.2－37.5%〉）。

ところが、このような自らの危機について、総選挙後、麻生太郎副総理が「北朝鮮のおかげ」と本音を漏らしたとおりに、北朝鮮が繰り返したミサイル実験と少子高齢化とを「国難」として「国難突破解散」で回避しようとしていました。選挙では、共産党が共闘のために候補者を降ろしたこともあって立憲民主党が躍進、野党共闘勢力が議席を増やしました。ただし、政治的危機を回避して改憲勢力の議席確保を狙った安倍首相のもくろみどおりに、改憲勢力が3分の2を占める状況を生みました。もちろん、自民党による多数議席の獲得は、得票率は47.82%にすぎないのに議席占有率74.39%（215議席／289議席）という小選挙区制度の弊害のうえに生じており、政権の政策を国民が支持した結果ではないことも銘記すべきです。

朝日新聞の、10月の世論調査では、安倍政権の下での9条をはじめとする憲法改正について、▽賛成36%▽反対45%、11月の世論調査では、◆安倍首相に一番力を入れてほしい政策として、▽社会保障32%▽景気・雇用20%などが高く、▽憲法改正は6%に止まっていました。しかし、自民党は、憲法の改正について、総選挙の公約が認められたとして憲法改正の4つの柱＝

①9条への自衛隊の明記、②緊急事態条項の創設、③教育の無償化、④参議院の合区の解消、を示し、2018年中にも憲法改正の発議を行うとしています。ただし上のような憲法改正についての世論や内閣支持率の低下もあって、当初の予定どおりに作業は進んでいないようです。

そのような改憲の動きとの関係で、全国知事会と会長の山田啓二知事が憲法改正を促進する役割を果たしてきた点に注意が必要です。10月の国と地方の協議の場において、山田知事会長は国に対して「地方自治を改憲対象に」と発言し、安倍首相は「極めて重く受け止めます」と、知事から改憲に前向きな意見が出されたことを歓迎しました。知事会は、柱の④に関連して、ワーキングチーム(WT)を作って議論を進めてきていたところですが、そこでの議論と自民の改憲推進本部での検討内容とが呼応して、改正の論点が整理されてきています。改憲推進本部が、47条改正によって合区をなくす根拠を作ることと、92条について、地方公共団体に「基礎的な地方公共団体」と「これを包括する広域的な地方公共団体」とがあることを入れる案を示すと、知事会WTも92条の「地方自治の本旨」の意味が抽象的であるとして「地方団体が住民の身近な事務を処理する『固有の権利』を有することを入れることで具体化する」案を出しました。合区問題は、参議院議員の性格に関する議論を抜きには考えられず、47条の文言の修正だけで解決できるものではありません。また、分権改革後の地方自治法には「地方

自治の本旨」を具体的に保障する諸原則や制度が定められました。いま地方自治の侵害として問題があるのは、政府による辺野古への米軍新基地建設の強行であり、これは選挙のたびに示されてきた沖縄県民の拒否の意思を一方的に踏みにじる「地方自治の本旨」に反する行為です。しかし、これは分権改革を通じて定められた地方自治法の規定の趣旨や意味を政府と裁判所までもが無視または等閑視しているがゆえに生じている問題であり、憲法の規定が抽象的だから生じている問題ではありません。山田知事と知事会は、憲法改正では解決できない、またはその必要のない問題を改憲問題として持ち出し、改憲への動きを促すだけでなく、地方自治が直面している問題の所在を見誤らせることになると思われます。

今年には京都府知事選挙の年です。また、沖縄でも名護市長選挙が行われます。改憲を押しとどめ、憲法を守り、地方自治の保障実現を明確にする首長の誕生に資する研究活動を旺盛に行っていく所存であることを表明して年頭のあいさつに替えます。



ストリートビュー調査始まる

中林浩（神戸松蔭女子学院大学教授・京都自治体問題研究所理事）

研究所では京都市の街路を観察する調査をはじめました。いまではGoogleMapで簡単に世界各地のストリートビューを楽しむことができます。360度見回すことができるから不思議です。わたしたちがするのは今回の調査はリアルなストリートビュー。

12月12日のプレ調査では14名が参加しました。寒波のやってきた日でしたが「やみつきになる」というような声も聞かれました。

1994年の住宅地図に土地利用・建物がどう変わったのかを赤ペンで書き込んでいきます。今回は烏丸通・丸太町通・堀川通・御池通に囲まれた地域でプレ調査を行いました。気になるものを発見したらそれも書き込みます。通りの光景・めずらしい風物・住み方を記録します。路地裏にも入りこむと思わぬ発見をします。調査中に住民に声をかけられたりしたら、その内容も文字にします。

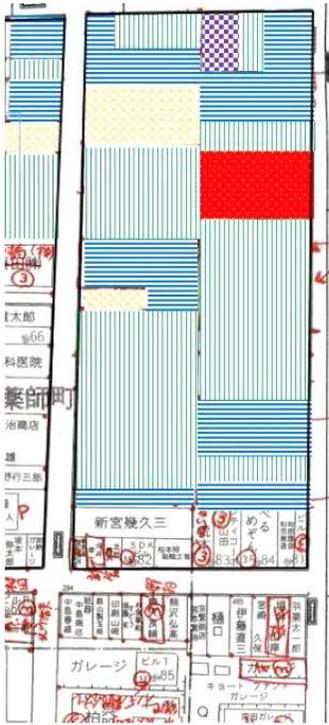
あえて23年前の住宅地図を使って、変わりを考える手がかりとします。1994年というとバブルが崩壊した少しあとですが、その後もかえって高層マンションによるまちこわしが進みました。2007年に新景観政策がうちだされて、高さ規制はきびしくなりました。そういうことも重ね合わせて分析すると、あり得べき居住地の姿がわかってきます。

まとめ方は高さ（階数）の分布、マンションや民泊・ゲストハウス・ホテルがどこにどのくらいあるかのマップを作ります。また、写真やスケッチとそれへのコメントを記録します。大きな視野からの京都の町のようにすをとらえ、また小さい部分での象徴的なことがらを拾います。外観だけで生活の中味を知ることはできないのは当然ですが、つぶさにすべての街路を歩くと、そこがどんな町なのかいろいろなことが見えてきます。それが景観の力です。景観は住民の総合的な芸術だともいえます。

これからまちづくり運動をしている団体がこれを実施すると、運動をより立体的にする効果も大きいと考えられます。

今年度は上京区・中京区・下京区の典型的な地区を対象として、寒い時期ですがもうすこしがんばり、季節がよくなったらさらに大規模に調査をしたいと考えています。さらに他区の調査にもとりくみたいところです。





御池通（幹線）沿いの高層建築物

北山

ここに空地があり、
駐車場になっている



低層住宅群の中に入ってきた高層マンション

かつては友禅業者の併用住宅が建ち並んでいた

西洞院通、手描友禅の産地を貫く

写真に加えてスケッチでストリートビューを記録します。写真よりもよくわかる場合があります。

1994年の住宅地図の上に建物の高さの変化などを記録し、それを図面化します。

「大相撲京都場所実行委員会」というのを発見。



烏丸通から30mのところの路地に立派な長屋を発見。



烏丸通の丸太町の近くは高さ制限が15mになった。参考書の有名出版社も3階建。



通り沿いの植木鉢コンテストなら優勝しそう。



名建築の二条薬業会館と薬祖神の鳥居。

空き家問題研究会

南丹市美山町における空き家活用事例見てある記

大塚佳治(空き家問題研究会)

南丹市美山町での空き家の具体的な活用事例を学ぼうと、10月18日、空き家問題研究会の土居靖範会長はじめ研究会メンバーなど6名が現地調査を行いました。

今回、美山で現地調査を行うことになったのは、昨年8月の空き家問題研究会で、南丹市の空き家問題対策を報告していただいた内容を、現地で実際に見てさらに深めようというものです。現地での案内・説明は、昨年の研究会での報告と同じ鞆岡誠南丹市議にお世話になりました。

1 調査した空き家や施設の概要

(1) 空き家を活用した住宅等 (6軒)

- 祖父が住んでいた空き家に孫が京都市内からUターンで戻り、活用している事例。
- 高低差のある2本の道路に面している1階が車庫、2階が倉庫の2階部分を活用して住宅としてIターンの若者が利用している事例。
- 廃校になった元小学校の分校が公民館になり、それも廃止されて、一時ドイツ人が借りて住んでいたが、今は、田歌舎で働く若い2人が暮らしている事例。[写真1 参照]



[写真1]

- 鞆岡氏の自宅(自作の手作りの家)
- 祖母の家を高知にいた娘さんがカフェとして改修し、営業している事例。高知と美山のものを使ったカフェ。[写真2 参照]



[写真2]

- 若い夫婦が安く購入した古家(平屋建て)を自分たちで改修し、住宅として使用している事例。
- 古民家の味わいを活かして、尺八・弓道・座禅などの教室に活用している事例(土居会長の紹介)

(2) 現地を理解するうえで参考となる施設等

- かやぶきの里・南丹市美山町北伝統的建造物群保存地区
- 南丹市美山山村留学センター(小学生を対象にした短期、長期の留学施設)
- 田歌舎(アウトドアガイド、山村体験、宿泊、レストラン、獣肉販売、加工品販売、農地の管理など、幅広い活動を通じて、地域に根付いている民間施設)

2 調査した空き家活用事例の特徴

調査は、外部からの目視、写真撮影と鞆岡氏からの聞き取りで行いましたが、調査した空き家活用事例では、いくつかの特徴点がありました。

- ① 空き家活用者が元の空き家の子・孫など他所に居住していた親族で、美山の良さを再認識して戻ってきたUターン組がいくつかありました。
- ② 美山には親族等はいないが、美山の良さを認めた人や、美山にある田歌舎などの施設での研修の関係で移住してきたケースもいくつかありました。
- ③ 他所からの移住組では、田歌舎でのボランティアをする人や、森林組合などの仕事を斡旋してもらって生活している家族もありました。田歌舎のボランティアが、安い家賃の元小学校分校空き家に居住しているのも、その事例です。
- ④ 茅葺空き家にこだわって移住した人もおられますが、比較的安い物件の購入や借りして、自分たちの手で家づくりをされた事例もありました。

3 美山の空き家活用で学んだこと

- 空き家活用については、美山の中でも集落によって大きな温度差があり、その差は、その集落が意欲的に空き家を活用しようとする地域力、コミュニティ力があるかどうかによるところが大きいと思われます。地域のことを主体的に解決できる力や、外部から来る人に対する対応やそのための地域の中での調整力がものをいうと思いました。
- 目先の空き家活用だけでなく、将来の地域の担い手としての若い世代の転

入が求められますが、そのためには、若い人を迎え入れられる仕組みや体制がたいせつです。鞆岡さんの地元の田歌集落では、新規に転入して来た人に対して、農業のノウハウを教え、農作業や農機具の共同化などの援助を行っています。

- 若い人たちと空き家をマッチングさせるうえで、経済力を考慮して、売却物件なら、300万円まででないといふ困難です。また、転入して来る人たちのために、仕事づくり、仕事紹介もたいせつです。森林組合や田歌舎などが、その受け皿の一部になっています。
- 地域で生活する場合、自給自足的な生活のため、現金支出は少なく、現金収入が比較的少なくても、なんとか生活することはできます。また、少ない現金収入を有効に活用するためには、地域でお金がまわる、そういう仕組みづくりがたいせつです。田歌集落では、米の自主的販売ルート確保などの地域での循環経済を实践され、その中で、お年寄りから若い人たちまでの地域のコミュニティづくりや落語家をはじめとする外部との交流を積極的に進められているのが、すごいなと思いました。こういう積み重ねが強い地域力をつくっていくものだと思います。

全国で空き家が増え、全国の自治体が人口減少の歯止めのために、空き家活用の動きをする中で、美山・田歌の経験は、大いに学ぶべきものがあると思いました。



木津川市政10年を経て、市民による市政検証 —10月14日「市民の会」による市民懇談会の報告—

みんなの木津川市政をつくる市民の会 霜田勤

はじめに

「市民の会」の正式名称は「みんなの木津川市政をつくる市民の会」という組織で10年前の三町（木津川、加茂町、山城町）合併時の住民運動を基盤にして今から8年前に組織されました。

3年前は、市民の目線で市政改革を進めていた「未来会議」の呉羽真弓さんを候補者にして市長選挙を戦い、40%近くの支持を得ましたが、惜敗しました。

この惜敗の反省と教訓から市政の実態を自ら学習、検証し、問題点や課題、そして政策を深める道を探求することなくして市政の転換はないと肝に銘じて学習を重ねてきました。

2017年に入り、「市民の会」は、合併10年の歩み、市内の人口動態から見た過密、過疎、空洞化、地域内交通の課題、障害児者の問題などを市民自らが報告する方法で、それぞれ20から25名の出席で連続学習会を開催してきました。

そして、秋に市政10年目を検証する目的で市政懇談会を企画し、当日までに、新聞折り込みのビラを全戸に配布しました。

10月14日は台風の接近と衆議員選挙がおこなわれている最中、参加者が少ないことが予想されましたが、ビラを見ただけで参加した人を含め総勢42名が出席、基調報告を含めて10名の方から報告

がなされました。

□ 最南端の自治体で起きている冷たい市政の数々

最初の基調報告は次の通りでした。

① 10年前合併時の市民の「期待」と「不安」は今どうなったのか？

合併時の「期待」は行政効率化と財政基盤の強化、重点投資、「不安」は公共料金の引き上げ、中心部と周辺部の格差拡大、役所が遠くなるなどでした。

② その後、10年間の市政運営は合併時の住民不安が現実のものとなりました。
〈河井市政の第1期 2007.4－2011.3〉

学童保育の時間延長等が行われましたが、旧加茂町の自校式給食は廃止され、給食は民間委託の給食センターに委託されました。また、国保税の17.1%の引き上げ、市内の公共バス料金の負担が増大しました。（旧山城町0円が200円、旧木津、100円が200円）

〈河井市政の第2期 2011.4－2015.3〉

南部市町村で進められてきた小学校6年生までの医療費無料化をやっと実現しましたが、小中学校の修学旅行補助金が廃止され、学童保育の利用料も国基準に合わせての1.5倍に引き上げ、障害者福祉手当を廃止する一方で、企業誘致支援は最高6億円まで拡大してきました。

<河井市政の第3期 2015.4-2019.3>

まだ2年半しか経過していません。数年に及ぶ市民運動で求めてきた中学校3年生までの医療費無料化、学校図書室のエアコン設置、洋式トイレの増設、普通教室のエアコン設置（今後の計画）は実現しましたが、木津給食センターの民間委託、地域包括支援センターの民間委託が実施され、2017年からは、山城町住民の願いと運動を無視して山城給食センター廃止と木津給食センターへの合併、そして、最近のごみ袋の有料化反対の意見や延期を望む声を無視して有料化を強行に進めようとしています。公立保育園の乱暴な民営化と統廃合も計画されています。

□ 基調報告の後、市民10名から多面的な意見が寄せられました。それを紹介し、市の現状を報告します。

- ① 木津川市周辺部の高齢過疎化の問題で、市城山台・邦実大・梅見台は人口が増加していますが、周辺部は京都府で一番高齢化や過疎化が進んでいる相楽郡東部3町村と同じ程度に高齢過疎化が進んでいます。ここに対して市は無策といえます。
- ② 学研地域は皆が集まる公共施設が少なく不便であることです。
- ③ 公共バスへの不満です。高齢化社会を迎えて、安全や利便性が求められますが、料金の値上げでバス利用者が低下しています。今、多くの市民が安く利便性のよい公共バスを求めてきています。
- ④ この間、様々な教育運動で改善はし

てきましたが、市長は「子育てナンバーワン」と称しながら教育に対して極めて冷たく、また高齢者福祉・医療に関わる公共料金は値上げの連続で、高齢者を苦しめています。

⑤ 今年度は減少しましたが、これまで木津川市は異常な貯めこみを進めてきました。交付税の合併特例が切れるとか、子や孫の代に借金が残せないと称し、財政調整基金は2016年で40億5,557万円、府下トップクラスです。

□ 2019年4月の市長選挙には市民の願いが実現する市長の実現へ

統一地方選挙まであと1年5カ月です。この点で、来年1年間は極めて重要な1年です。京都府知事選挙を重視するとともに、2019年の春には市民の願いが実現する市長を実現するために

- ① 1には候補者を
- ② 市民意見を反映した政策を
- ③ 何よりも共闘を重視し
- ④ 夏や秋には地域の組織と様々な分野の組織を確立し最南端の自治体から暖かい春の風を送るため奮闘します。



『二重螺旋 完全版』

(新潮社発行 ジェームス・D・ワトソン (著), 青木 薫 (翻訳) 2015年5月3,000円+税)

原稿の依頼を受けて、読みかけていた中京大学教授の大内裕和氏の「奨学金が日本を滅ぼす」にしようかと思ったが、前号が「エキタス…」なのを見て、少し違うものかと思ひ、以前から気になっていた本書を手取ることにした。本書は、ジェームス・ワトソンがフランス・クリックとともに、1953年に発表したDNAの2重らせん構造の解明に至るまでのいきさつを、自ら振り返りながら記したものだ。

私は、高校生からの一時期、「生物」に心を奪われていた。授業の教科書はもちろん、副教材の図説が擦り切れるまで読み込み、受験の予定もないのに京都大学や東京大学の入試問題に頭を悩ませたりしていた。

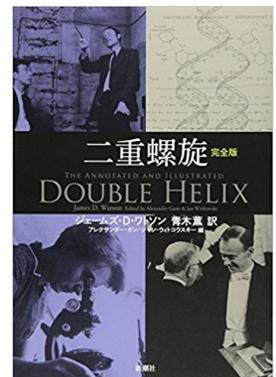
人のからだの中では、様々な化学反応や、エネルギー生産が繰り返されている。植物の中では光と水と二酸化炭素から、酸素とエネルギーを取り出すシステムが絶え間なく動いている。31億のDNA塩基配列が、髪や目や肌の色はもちろん、特定の病気の掛かりやすさなどを決めている。そして、まだまだ仕組みが解明されていない事が山ほど埋もれている。当時の私は、普段何気なく過ごしてきた世界が、精密で複雑なシステムによって回っていることや、分からないことが次々に出てくることに、毎日ワクワクとさせられていた。

本書は、私にあの頃のワクワクを思い起こさせてくれた。ワトソンは、DNAの構造解明という歴史的な大発見に至るまでのいきさつを「その冒険」と表現している。まさにそのとおりだろう。たくさ

んの研究者が誰も見たことのないゴールに向かって、それぞれのやり方でアプローチしていく。誰が最初にゴールにたどり着くのかは分からない。それこそ、そのアプローチがゴールに繋がっているのかすら分からない。科学は、そうした途方もない、結果無駄に終わるかもしれない努力という名の「冒険」の積み重ねによって進んでいく。

今、日本の学術研究の中では、軍事研究との関係が大きな論争となっている。防衛省が莫大な予算をぶら下げて、軍事転用できる研究に近づこうとしている。その一方で、基礎研究全体への予算は削られている。先日NHKで、科学者が予算獲得のために有名な学術誌への論文掲載に躍起になり、そうした中で論文の改ざんが大きな問題になっていることが取り上げられていた。一体何のための研究なのか、お金がなければ当然研究は出来ない。しかし、お金を得るために研究そのものをねじ曲げるのだとすれば、まさに本末転倒だ。

私は、全く畑違いの仕事をしているが、「なぜ？」という素朴な疑問の中に、大きなワクワクがあることを生物の授業を通じて見る事が出来た。子ども達が、「なぜ？」という気持ちを大切に、望むならその「なぜ？」をどこまでも突き詰めることができるような社会であって欲しい。





紅葉の季節、どこも観光客があふれているので、早朝の開園時間を目掛けて出かけることにしました。

天龍寺は1339年（暦応2）に後醍醐天皇を供養するために、足利尊氏が建立しました。夢窓疎石を開山として、庭園は国の特別名勝第一号に指定されています。1994年には世界文化遺産にも指定されました。この曹源池庭園は左手に嵐山、正面に亀山・小倉山を借景した池泉回遊式庭園で、優美な王朝文化と禅文化が巧みに溶け合った雄大な眺めが、訪れる人々を楽しませています。曹源池の名称は「正しい源から流れ出る真実の禅」を意味する「曹源一滴」に由来しているそうです。

早起きしたお蔭で池を眺めるための椅子にも空席があり、朝日を受けて広がる景色を心静かに楽しむことが出来ました。夢窓疎石は作庭を修行ととらえていたそうです。立つ場所によって様々に変化する庭の表情にも、深い意味があるのでしょうか。池に映りこむ紅葉の木々や山並みの曲線も美しく、とても見ごたえがありました。ただ、今年の紅葉は少し色が悪く、全体に褐色のフィルターがかかっているようでちょっと残念でした。

天龍寺は京都の紅葉ランキング20位だそうですが、池の奥の参拝コースを一巡して戻ってくると、観光客がどんどん

増えて、曹源池の周りは写真を撮す人たちが数珠つなぎになっていました。そして駐車場には「満車」の札が出て、渡月橋に向かう道は人があふれていました。恐るべし、嵐山です。清々しい朝の気配が消えないうちに、急いでJRに乗って山科に帰りました。

さて、4年間続けてきた「カメラ探訪」も50回目となり、今号を持って一区切りとさせていただくことになりました。毎月「どこに行こうかなあ…」と悩みながら続けてきましたが、このページを担当させていただいたおかげで、京都の町の事を少しは勉強することが出来ました。振り返ってみて、京都の町の魅力は、その土地ごと、その時代ごとに人々の思いや営みがあり、それが今日まで受け継がれてきていることにあるのだと思います。戦乱や天災を乗り越えて、時代の変化に立ち向かって人々の暮らしが続いてきたことが、1300年の歴史を積み重ねてきたのだとすれば、これから先もこの町で暮らす私たちの営みが豊かで文化的でなければ次の世代につないでいくことが出来ません。観光地で働く人たちのほとんどが非正規雇用の街になってしまった京都の20年後、50年後は大丈夫でしょうか？嵐山のお土産物屋さんの前を歩きながら心配になりました。

「カメラ探訪」をお読みいただいた皆様、本当にありがとうございました。

皆様のますますのご健勝をお祈りしています。



事務局通信

京都自治体学校日程決まる！

北部自治体学校

日時:2月18日(日) 13:30～
場所:福知山中丹勤労者福祉会館
テーマ:

みんなで考えよう！

憲法と住民の暮らしを守る自治体の役割

*第1回実行委員会

日時:12月21日(木) 18:30～
場所:福知山市職員組合書記局

南部自治体学校

日時:2月25日(日) 14:00～
場所:JR宇治駅前市民交流プラザ
「ゆめりあうじ」
テーマ:憲法と自治体の役割(仮称)

第18回京都府空き家問題研究会の案内

日時 12月26日(火)午後6時30分～
場所 京都自治体問題研究所
テーマ ①新たな住宅セーフティネット制度について(報告:前田直人さん)
②(中古)住宅市場問題について(報告:藤井一さん)
・研究会メンバーになろうかと思案中の方もぜひ一度参加して下さい。

●会費及び「住民と自治」誌購読料納入のお願い

2018年3月までの請求をさせて頂いています。入金のほど、よろしくお願ひします。

●「京都戦後民主運動 歴史資料アーカイブ」は紙面の都合上、お休みします。

●「カメラ探訪」は本号をもちまして終了です。ご購入ありがとうございました。

58th ツキイチ土曜サロン

- ・開催日 1月20日(土)
- ・時刻 14:00～
- ・場所 京都自治体問題研究所
- ・報告 久保健夫さん

<今月の本>

「労働者階級の反乱—地べたから見た英国—」

光文社新書 プレイディみかこ 820円+税

全世界を驚かせた2016年6月の英国国民投票でのEU離脱派の勝利。海外では「下層に広がった醜い排外主義の現れ」とする報道が多かったが、英国国内では「1945年以来のピープル(労働者階級)の革命」と評す向きも多かった。世界で最初に産業革命を経験し、最初に労働運動が始まった国イギリス。そこでは労働者たちこそが民主主義を守ってきた。プレグジットは、グローバル主義と緊縮財政により社会のアウトサイダーにされつつある彼らが投じた怒りの礫だったのだ——。

英国在住、「地べたからのレポート」を得意とするライター兼保育士が、労働者階級のど真ん中から、「いつまでも黙って我慢しない」彼らの現状とそのスピリットの源流を、生の声を交えながら伝える。
(光文社)

お気軽に参加下さい

*参加自由、事前申込み不要。

終了後に気軽なワンコイン懇親会あります。



●年報第11号(18年5月末発行予定)論文募集●

☆特集テーマ:「憲法と地方自治」 ☆締切り:2018年4月15日

- ・会員であればどなたでも投稿できます。特集テーマ以外でもかまいません。
- ・投稿種類:研究・討論・調査レポート、動向、資料、書評(投稿規定・執筆要項あり)